

ベトナム向け地域日本語教室の役割

[前半]ボランティア日本語教室の成り立ち、現状、今後の課題

地域日本語教室「チュンタムみなみ」 尾崎ゆり

1. 前半・後半のあらまし

6月6日 ベトナム人日本語教室の運営	7月4日 ベトナム人の日本語学習支援
<ul style="list-style-type: none">・ベトナム人日本語教室の成り立ち・大事にしていること・教室運営の工夫・課題・ベトナム人教室の特徴	<ul style="list-style-type: none">・ベトナム人の言語的特徴と日本語学習・教室のすすめ方の工夫・ベトナム人向け教科書の紹介・先生がやってはいけないこと・やるべきこと・今後のニーズ 両極化

2. ベトナム向け地域日本語教室の成り立ち

(1) 自分自身の経験

- ・1970年代 テレビ・新聞、出来事で身近なベトナム戦争
- ・1990年 アメリカ・ワシントンDC、ベトナム戦没者慰霊碑での経験
(58,000人以上の戦死者(若者)の名が刻まれている)
- ・1995年 ベトナム訪問、ベトナム人の問いかけ「あなたは、なぜ、ここに来たのか？」
- ・1990年代後半 ベトナム語を勉強するが、どう生かせるのか暗中模索



(2) 日本語ボランティアスタートと、日本語教育の修行

- ・2007年に愛知県の調査にかかわって県内日本語教室11か所、ブラジル人学校14校でヒアリング等調査(自分の本業は社会調査)
- ・その後、港区と南区の2か所で日本語ボランティアを始める(それぞれ週1回)
- ・各地(名古屋市、三重、静岡、大阪、神戸、神奈川など)の日本語教室を見学
- ・日本語教育能力試験を受験、資格取得

(3) 様々な地域日本語教室から学ぶ

- ・豊田市T教室 団地のコミュニティの核となっている、複数の団体の活躍
- ・刈谷市K教室 入門から上級ディスカッションクラスまでカバーできる幅広いボランティアの人材と組織力、超入門は熟練ボランティアが担当すること
- ・大府O教室 マンツーマンのよさ、教室の施設(市役所)が整っている
- ・港区K教室 学習者自身の力、クラス制の教室のよさ
- ・南区M教室 定着や日々の生活を含めて支援してきた歴史、レベルの高い生活日本語の教材、コーディネータによる調整
- ・横浜日本語ラウンジ 各区にラウンジが設置され、教室を開きたいボランティアが、都合に合わせて様々な時間帯で教室を開ける

課題と感じた点

- ・教室の方式「教室型」か「マンツーマン」か
中規模の「教室型」では教室運営できるレベルのボランティア教師の確保が課題。担当になった人が仕事をしている場合負担も大きい。反対に「マンツーマン型」では、ボランティア教師の能力や人格のばらつきの管理が難しい。
- ・サポートのばらつき
施設、環境が整うかどうかは、行政（外郭団体）の考え方による。
- ・地区のミスマッチ
外国人が多い地区と日本語教室のある地区（ボランティアが多い地区や市内中心部）には、ミスマッチがある。
- ・コーディネーターの必要
腰の低いコーディネーターがいると、運営がうまくいきそう。反対に名誉欲が強い人がいると、教室運営がうまくいかないようだ。

（４）南区での独立

- ・当初は、南区の公共施設内にあった日本語教室で、ボランティアとして活動していた。歴史があり、国、市による補助があり、非常にめぐまれた教室だった。（ボランティアへは交通費支給、教室借用費とコピー代は無料、教室や教材の置き場所も確保されている）
- ・自分はベトナム、タイ、フィリピン、ブラジル人の担当となった。（教室の昔からのボランティアは中国語や英語が得意な人たちで、中国人と英語圏の人を教えていたため）
- ・やがて、ベトナム人の数が増え、10人を超えてきて、1人では担当できずに、友人や知り合いのボランティアに頼んで、助けてもらうようになった。だんだん中国人の学習者が減ってきて、学習者がほとんどベトナム人となった。
- ・ベトナム人が20人くらいになった頃、それまで教室のコーディネーターであったSさんが亡くなられ、教室創業者で代表のKさんも高齢で体調を崩された。代表が変わり、体制が変わって、ボランティアとしての負担が大きくなった。



写真左側はベトナム人学習者とボランティア、右側はボランティアだけで学習者はいない

毎週、新しい参加者の面接と教室に入るための履歴書書き、ビザチェックを2～3人分しなければならない、毎週20名分以上の名簿と記録を男女別に作り、当然ながら、日本語も教え、自分で教材コピーもしなければならない。さらに、これまで義務ではなかった年5回の行事参加と手伝いが、ボランティアと学習者の義務になったのがきつかった。

- ・「このままでは続けていけそうにない」と思い、改善策の相談もさせていただいた。結局、別の部屋で教室をやることになった。（ベトナム人たちの声は大きく、教室でうるさいと言われていて、別の部屋にするなら、自分たちでやってくれと言うことになった。）

（５）大事にしようと思ったこと

独立の際には、今までの経験から、次のことを大事にしようと思った。

フレキシビリティ柔軟性

当事者の運営参加

交流・コミュニケーション

カイゼン事務省力化

【最重要】日本語教育レベル維持

- ・学習者が参加しやすい教室
大きな声で話していいし、自分では決められない会社の都合があるのだから、休んでもいいような教室
- ・安心して勉強できる教室
学習者の人は外国人としてハラスメントを受けることも多いのだから、教室では安心してほしいし、プライバシーを守り、セクハラなどがない教室にしたい
- ・若いボランティアがたくさん来てくれる教室
学習者は、年配の経験者を尊敬してくれているが、年齢の近い若い人とも話をしたい
- ・学習者の意見を聞くこと
ボランティアだけで決めない
- ・不要な事務作業はやらないこと
ボランティアも学習者も入れ替わるので、不要な記録作りや不要な事務はやらない
- ・教育レベルの確保（これが一番大事）
そして一番大事なのは日本語教育レベルの確保

3 . チュンタムみなみの運営

続けていけるのか？、お金はどうするのか？、不安でいっぱいだったが、2013年2月に「チュンタムみなみ」をスタートした。同じ時期に、大府市でも、ベトナム人を中心としたWKYという教室が独立していた。同じようなニーズがあったのだと思う。

(1) 教室の概要（メインの南教室について説明）

- ・メインの土曜日夜の南生涯学習センターの教室、ほか少人数で子どもスペースのある名古屋港教室、現在立ち上げサポートをしているつしまにほんご教室の3か所
- ・学習者は1日あたり10数人～50人、口コミかSNSを見て参加してくる。実習生、技術、家族、なぜか留学生も
- ・ボランティアは1日5～10数人、「ぼらみみ」経由、ボランティア入門講座受講者など
- ・学習者から教室に入った時に2,000円を徴収してテキストを渡す
ボランティアは交通費含め無償
- ・勉強のほか、月に1回体育としてバドミントン、ほか随時イベントを実施
- ・相談は随時行う（病気になった、試験の申し込み方法がわからないなど）
- ・参加者をベトナム人に限っているわけではない（他の国の人とも来る）

(2) 学習方法（詳しくは7月4日に紹介）

- ・レベル別のグループ学習 レベルはN1、N2、N3、N4、その他（N5、子どもなど）
- ・市販テキストを使用している
理由は、ボランティアの負担が少ない（突然来てもできる）、系統的に勉強でき、先生によるぶれが少ない、コピーする手間がいない
- ・参加する学習レベルは学習者自身に選んでもらう。
- ・ボランティアがどのグループを担当するかも、ボランティア自身に選んでもらう。（担当レベルは固定でない。事前に決めることもない。）

(3) 工夫していることなど

- ・ミーティングはみんなで
ミーティングは月1回、ボランティアも学習者も交えて意見を聞く。簡単だが。
日本語ボランティアへの連絡は必要な時(1か月1回程度)に、メーリングリストで行う。
- ・気分転換
勉強ばかりでは人間関係が一方的になりがちなので、勉強と関係ないバドミントンをしたり、反対にベトナム語を教えてもらっている
- ・ボランティアの育成
未経験者は、経験者についてやり方をみてもらい、慣れてきて1人で教えられるようになったら、まず少人数を教える。コーディネーターが随時アドバイスする。
問題行動があるボランティアにやめてもらうこともある。(プライバシー保護を守れない人やストーカーなど)
- ・ボランティア体験は最低3日間からにしている
1日だけの人が多いと入れ替わりが多くて、学習者もコーディネーターも疲弊してしまう。
- ・1部屋でやっていることのメリット
現在お金もないため、教室は部屋を1つだけ借りて、同じ部屋でグループごとに勉強している。
うるさい、狭いという問題はあるが、見通しがきくので、コーディネーターは活動しやすい。また、グループ分けもしやすい。

4. 教室の役割と課題

(1) 教室の役割

- 1) 生活に必要な日本語を勉強する場所
- 2) 人と出会う場所、コミュニケーションの場所、情報交換できる場
- 3) 困った時誰かに話をできる場所

(2) 課題

- ・教室確保と教材置き場の確保 (申し込みシステムの変更があれば...)
教室借用費がかかるのは仕方がないが、毎月、平日にセンターに行って、部屋を取らなければならないのが重い負担(それをできる人がいなくなったら、教室は続かない)
インターネット申し込みなどできるといいのだが。
- ・地域の祭りに参加したいが負担が多い (参加システムの変更があれば...)
以前は会場のセンター祭りに参加して、それなりに人気だったが、参加のために、平日にセンターに行って当番などをしなければならないのが難しく、参加を取りやめにした。
当日だけ、あるいは、夜間の手伝いで参加できるといいのだが。
- ・年少者向き母語教室の希望

5. ベトナム人向け教室としての特徴

(1) ベトナム人の特徴？

- ・声が大きい
- ・プライバシーを聞く・話す・チェックしている
- ・結束力が強い（強く見える）
- ・目上の人、先生への尊敬の態度
- ・Học thêm 勉強好き？

(2) ベトナム人教室のメリット

- ・母語で教えあえる。入門レベルの人の学習進度は非常に速い。
- ・勉強以外の楽しみがある。おしゃべり、出会い。
- ・ボランティアもベトナム好きの人が来るので、話が楽しい。
- ・カリキュラムが特化できる（間違いやすい発音の練習や、間違いやすい文法の説明など）

質疑応答や感想

- ・声が大きいのは、リラックスして勉強している証拠だろう。他の教室では静かである。
- ・国別に特化する教室もよいのではないか。学習者も教室を選んで通っている。
- ・ベトナム人は回答できないと面子が傷つくので、できない問題を聞かない方がいいと聞いたがどうか？
わからなければ誰かに聞くし、それほど傷つかないと思われる
- ・試験勉強と生活日本語とどちらを求めているのか？
まず、勉強が好きできている。半分くらいが試験を受け、半分くらいは受けない
- ・教室費用のために、バザーで料理を売るなどの方策を考えてはどうか？
これまでも行っている。準備には時間がかかる。
- ・「趣味」と言われたが、趣味程度ということか？
仕事の日本語教師も、日本語ボランティアもそれぞれ必要で、どちらがいいというわけではない。
- ・若い人向けに、日本語ボランティアなどが有償の仕事となる展開がほしい。
- ・URの集会所を利用する方法もある。
ブラジル人、中国人は集住しているが、ベトナム人は会社の都合で住居が決まるので、集住がほとんどない。またURに住まずにいきなり家を買ってしまう。
- ・年少者や超初心者の教え方はどうか？
年少者は受験勉強経験者の大学生に担当を頼む。超初心者ははじめベトナム語ができる先生が付くが、まわりに先輩がいるので、すぐ普通のクラスに入れる。